

所属・氏名（総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 氏名：沖田啓子）

| 著書、学術論文等の名称 | 単著 共著 の別 | 発行又は発表 の年月 | 発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称 | 概 要 |
|--|----------------|---------------|-----------------------------|---|
| 1 (報告・発表) 脳卒中の言語療法の最前線 | 単著 | 2015年3月 | 第40回日本脳卒中 学会 | 脳卒中の後遺症である失語症の言語訓練について、伝統的な訓練法からrTMS、CI 療法等の最新の言語訓練について国内外の論文と自験例をもとに報告し、今後の可能性について述べた。 |
| 2 (学術論文) 回復期リハビリテーション病棟 における脳損傷嚥下障害の 予後 | 共著 | 2014年12月 | 日本言語聴覚士協 会 | 入院時経管栄養のみであった脳損傷患者95名を対象に、退院時経口移行に関してロジスティック回帰分析により予後因子を調べ、年齢、両側病変、唾液のむせ、FIM 認知項目が抽出された。(p.348-352) 下本真理絵、渡邊光子、沖田啓子、佐藤新介、岡本隆嗣 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 3 (学術論文) 嚥下スクリーニング質問紙 EAT10 暫定版の有用性の検 討 | 共著 | 2014年4月 | 日本摂食嚥下リハビ リテーション学会 | 米国で開発された嚥下障害の問診用質問紙を翻訳し EAT10 暫定版として妥当性を検討した。その結果感受度 77.6%、特異度 75.9%であり、わが国での使用が可能と考えられた。(p.30-36) 渡邊光子、沖田啓子、佐藤新介、瀧本泰生、岡本隆嗣、栢下淳 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 4 (報告・発表) 特集 失語症支援について 回復期における支援 | 単著 | 2010年8月 | コミュニケーション障 害学 | 回復期リハビリテーション病棟におけるリハビリの特徴である早期からの集中訓練の結果、失語症の機能改善は回復期リハビリテーション病棟以前よりも大きいことがわかった。また、発症から早期に転院するため、失語症者の心理的不安定は大きく、看護介護職員との連携が重要と考えられた。(p.114-120) |
| 5 (著書) 誤嚥を防ぐポジショニングと食 事ケア | 共著 | 2013年5月 | 三輪書店 | 食事におけるポジショニングにかかわる基本的な理論とリハビリテーションを含めた臨床例を通して、嚥下障害への安全な対応について述べる。(総頁 173 頁) (著者名: 迫田綾子、吉岡慶美、原田裕子、北出貴則、竹市美加、沖田啓子、川端直子 他11名) 担当分の概要: 在宅における食事のポジショニングについて事例をもとに解説した(p.68-74、単著)、増粘剤の特徴と使用について解説した(p.104-108、単著) |